

調布スマートシティ協議会に関する ご説明資料

2021年6月24日
調布スマートシティ協議会

1

調布市スマートシティ協議会設立に向けた検討経緯について

2

調布スマートシティ協議会の今後の進め方について

調布市について

都心からも近く、人口は23万8千人を超え、増加傾向。多様な学術・文化資産、自然が融合して存在。一方で高齢化の進展や、風水害等の災害リスク、新型コロナによる社会変化等、様々な課題もあり

新宿駅まで特急で2駅15分



《人口》

総人口	: 238,087人
外国人	: 4,429人 (1.9%)
年少人口	: 29,666人 (12.5%)
生産年齢人口	: 157,043人 (66.0%)
高齢人口	: 51,378人 (21.6%)
世帯数	: 121,786世帯
【R3.4.1現在 住民基本台帳に基づく】	

- ASIJ
- 調布飛行場
- 神代公園
- 深大寺
- 田んぼ・畑
- 野川公園
- 東京外語大
- 味スタ・スポーツプラザ
- 電通大
- 野草園
- つみち
- 京王閣
- 多摩川
- 映画スタジオ
- 鬼太郎通り
- 調布百店街
- 白百合女子大
- 桐朋学園大
- 音楽
- デカ盛り

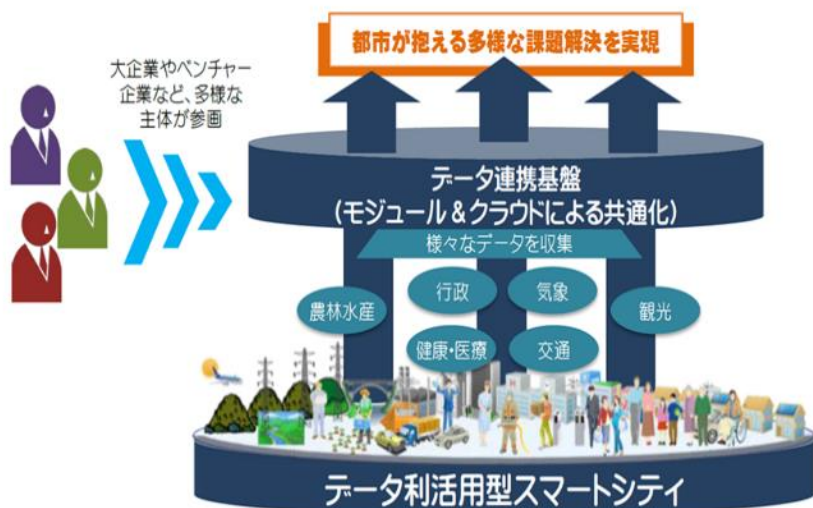
スマートシティ (以下、「SC」) の一般的な定義

SCの定義は地域・団体によって異なるが、一般的には「多様な関係者（ステークホルダー）が連携し、ICT・IoT等のデジタルを活用して地域課題を解決する取り組み」であるとされる。



スマートシティ整備推進事業

“ICTを活用したスマートシティ（都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、生活の利便性や快適性を向上させるとともに、人々が安心・安全に暮らせる街）型の街づくりを通じて、地域が抱える様々な課題の解決や地域活性化・地方創生を実現する” 1)



2)

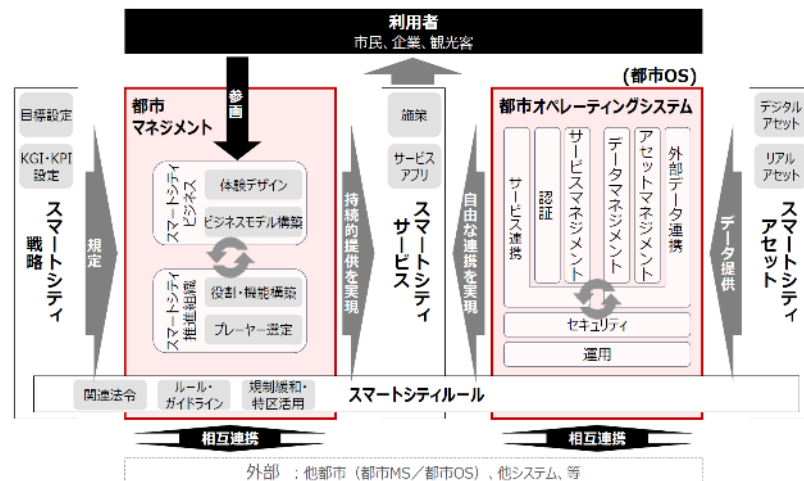
出典：1.総務省「平成31年度予算 データ利活用型スマートシティ推進事業に係る提案の公募」平成31年3月15日

2.総務省「ICT街づくり推進会議 スマートシティ検討WG 第一次取りまとめ」平成29年1月



スマートシティリファレンスアーキテクチャ

“Society5.0をベースに導出したアーキテクチャ構造を、利用者中心性および外部との相互連携に焦点を当てた形で、構成要素間の関係性と共に図示”

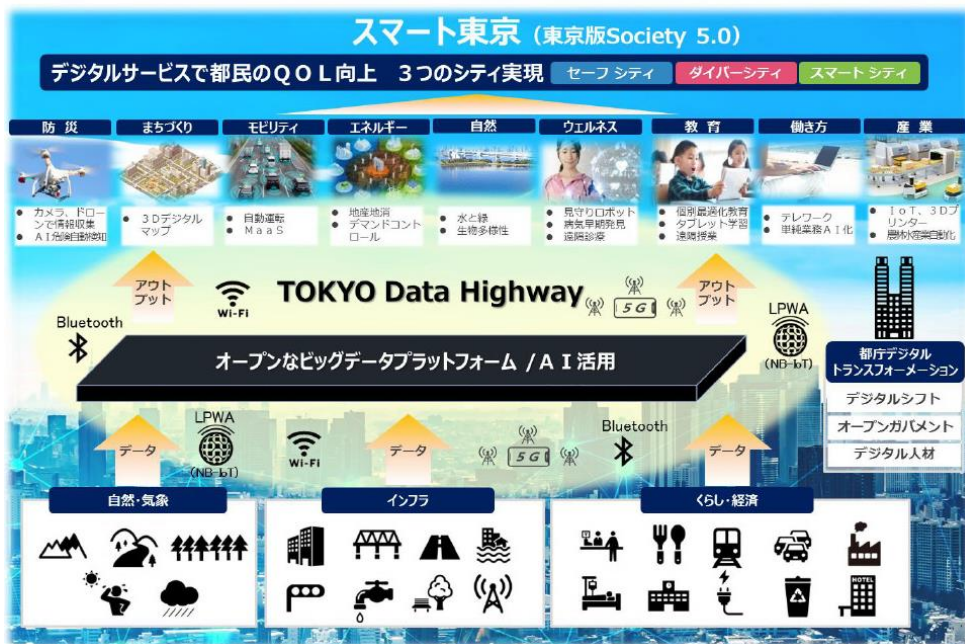


出典：内閣府「令和2年度の政府スマートシティ関連事業について」令和2年3月24日

東京都におけるスマートシティの取組「スマート東京」

東京都においても、東京都版Society 5.0として「スマート東京」を掲げ、デジタルサービスによる都民のQOLを向上させる取り組みを推進している。

スマート東京の全体像



南大沢スマートシティプロジェクト

- ✓ 南大沢駅周辺地区は、大学・広域商業施設等の立地による賑わい拠点が形成されている一方、丘陵地のため、高齢者や買物客等の日常の移動負担の軽減等が課題
- ✓ このため、産学公連携による協議会を設立し、先端技術を活用した対策の検討や実証実験の実施等により、住民生活の向上に資する持続可能なスマートシティを推進

取組内容

<南大沢スマートシティ協議会>

- ①南大沢スマートシティ実施計画の策定
- ②地域の課題、先端技術による対策の検討
- ③自動走行可能なモビリティ等の実証実験

(検討体制)

南大沢スマートシティ協議会(令和2年10月)
(東京都・八王子市・都立大・地元企業等)



(検討内容)

地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵地の高低移動の負担軽減、住宅団地から駅やバス停へのアクセス交通の確保 鉄道とバス、タクシー、自転車等の円滑な乗換、地区内の快適な移動
先端技術による対策	<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転 車いす、電動シェアサイクル・キックボード、自動運転EV (デマンドバス、タクシー、小型モビリティ等) の導入 ○MaaS、TDM (カーシェア、P&R)、ITS (道路交通・駐車場情報等) の推進

(実証実験)

実証実験 ◎自動走行モビリティ (高齢者等移動支援)
(自動運転車いす) (自動運転ロボット)



調布スマートシティの前提にある考え方

Society5.0は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。







最終ゴールである『共有価値創造型SC』

調布SCは、産学官民が能動的に連携し共有価値を創造し、社会的課題の解決と経済的価値の創出を両立させながら、持続的に進化し続ける「**共有価値創造型SC**」を目指す。



調布SC準備委員会 概要

令和2年8月に調布市、電気通信大学、調布市地域情報化コンソーシアム、アフラック生命保険が連携し、調布SC準備委員会を立ち上げ、協議会の位置づけや活動内容などに関して検討を開始。

設立目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調布スマートシティを推進していく協議会を設立するべく、その準備に向けて協議 	
参加メンバー (敬称略)	<p>調布市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域における企業・大学等の知見や技術等を活用するため、産学官民の連携を推進 ■ 市における課題をSCに取り組む企業・団体に共有し、解決 
	<p>電気通信大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学が保有する研究シーズを組み合わせ、産学官連携を推進 ■ AI・IoT等、最先端技術に関する知見を提供 
	<p>調布市 地域情報化コンソーシアム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「調布経済新聞」をはじめ調布の情報を積極的に発信 ■ 商工会、商店街等、様々な地域のネットワークを保有 ■ 行政各課をまたぎ、市内イベント情報や団体情報、市内事業者情報の一元化データベースを運用 
	<p>アフラック生命保険</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調布市とは包括連携協定を締結し、様々な分野で連携関係を強化 ■ ヘルスケアを中心に地域課題解決に繋がる様々なサービスの検討に着手 
開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和2年8月 	
主な協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ SCに関する理解の醸成（他市SC、都市OSの事例などの共有） ■ 調布SC協議会の位置づけ、活動内容等に関する検討・協議 	

1

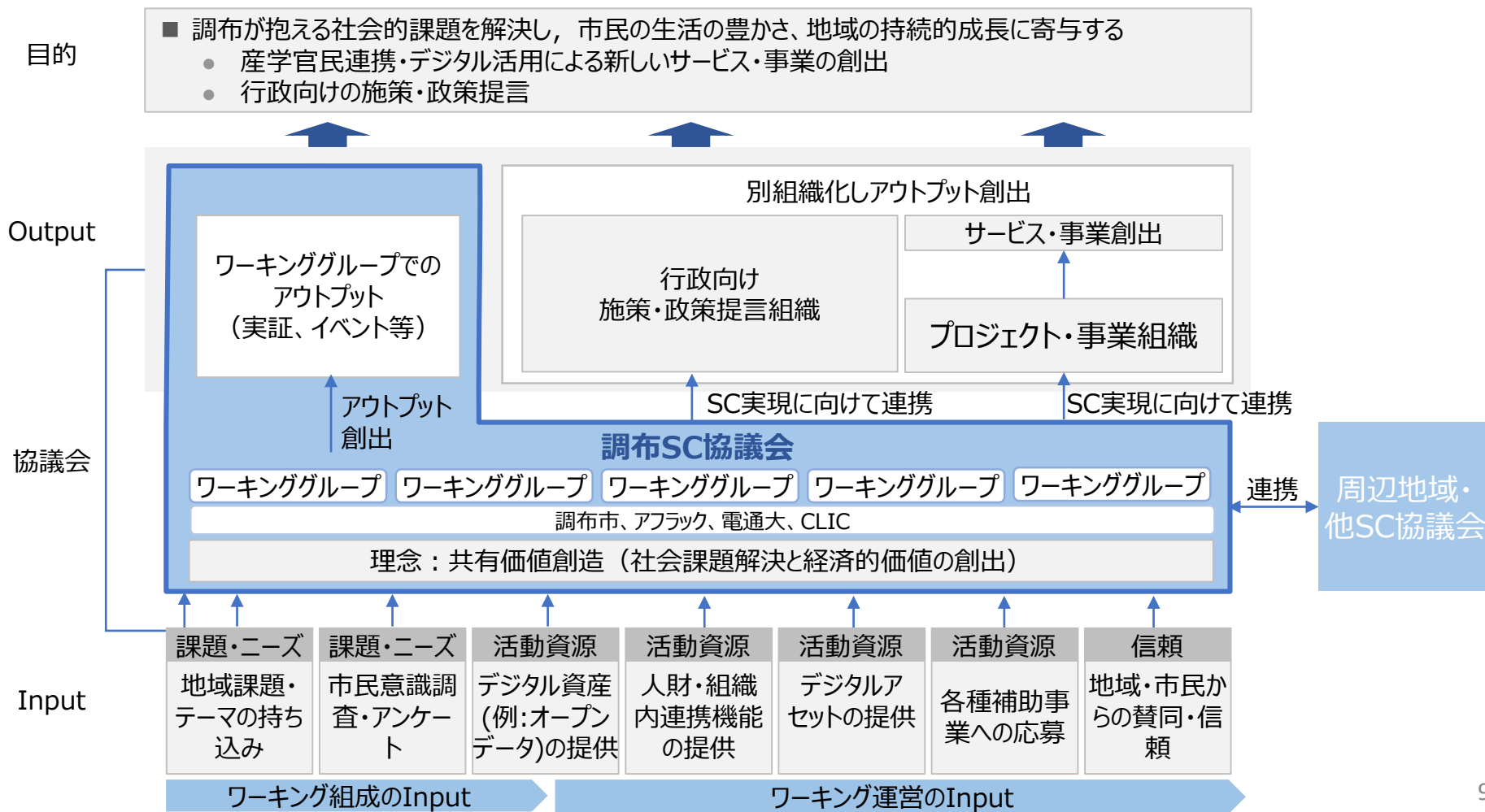
調布市スマートシティ協議会設立に向けた検討経緯について

2

調布スマートシティ協議会の今後の進め方について

調布SC協議会の位置づけ

調布市の課題やニーズを把握し、様々な活動資源を活かして調布SC協議会の活動を推進。



協議会ワーキンググループ(以下、「WG」)での活動内容

WGはヘルスケアやニューノーマル等の4つのテーマを初期的に設定し、行政・大学・企業等が連携し施策を検討、実施。

WG	活動概要（予定）	活動内容・アウトプットイメージ
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 先端的なデジタル技術を活用した産学官民連携によるヘルスケアサービスの創出し市民の健康増進に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食事、スポーツなどの多様な要素を組み入れた健康管理サービスの具体化 ■ オフライン・オンラインでの健康・運動プログラムの提供(ICT教育含む)
ニューノーマル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 感染症問題への対策や、新しい生活様式への移行に向けた施策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しい働き方に関する意見交換会・ワークショップの実施 ■ 環境経営に関する施策共有、啓発 ■ 市内商店街におけるCO2濃度の測定、ナッジ・行動変容に関する実証
地域人財育成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域におけるワークショップ等を企画、実行し、運営・参画双方における人財育成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 異業種交流ワークショップ、学生ワークショップ等の実施を通じ、人財交流基盤強化の枠組みの組成
情報連携・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 行政情報やサービス等が市民に届き、市民が利用しやすいように改善 ■ 情報共有・情報発信の基盤について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報共有・情報発信に関する協議会内での施策検討 ■ 手話に関する画像解析を活用したコミュニケーション実証

【ヘルスケアWG】ヘルスケア施策の検討

食事、スポーツなど多様な要素を考慮したヘルスケアサービスについて産学官民の連携により具体化し、市民の健康増進に貢献。

実施内容

- ヘルスケア X スポーツをテーマにした実施案
- 継続的に利用してもらえる健康管理サービスの構想立案、プロトタイプ開発。具体的には健康状態、体重・心拍数といったカラダ情報、歩数や運動量等の活動量を可視化し健康管理を支援
- 多くの人が参加しやすい健康促進サービスを展開し、健康モニタリングの習慣化を支援

ヘルスケアサービス(仮)



【ニューノーマルWG】市内飲食店等におけるCO2の収集と活用

調布駅周辺の商店街における飲食店やスポーツジム、学習塾等で、高精度の小型CO2センサーを利用して、人の密度を可視化する実証実験を開始。



小型CO₂センサー

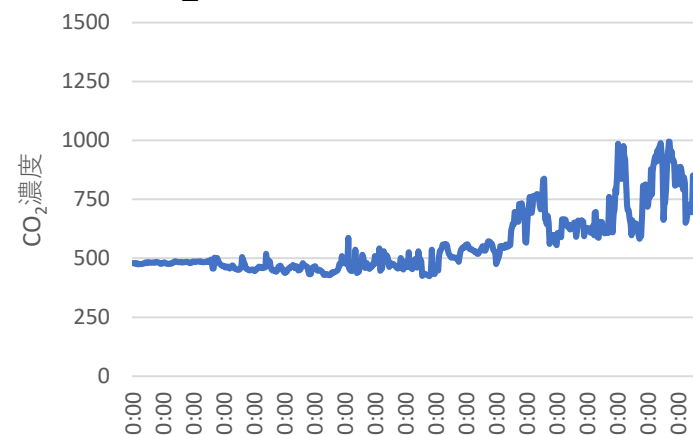


CO₂の計測事例（居酒屋）

人の密集度と建物の密閉度を同時に示す換気の指標 = CO₂濃度[ppm]

CO ₂ 濃度[ppm]	状態	説明
1,000以下	良好	この状態を保つ
1,000-1,500	やや良い	受け入れられる限度
1,500-2,500	悪い	換気するか、 部屋の使用を控える
2,500-3,500	非常に悪い	
3,500超	極めて悪い	

出典：日本産業衛生学会 産業衛生技術部会 新型コロナウイルス(COVID-19)対応検討チームの指標を元に編集
http://jsoh-ohc.umin.jp/covid_simulator/covid_simulator.html

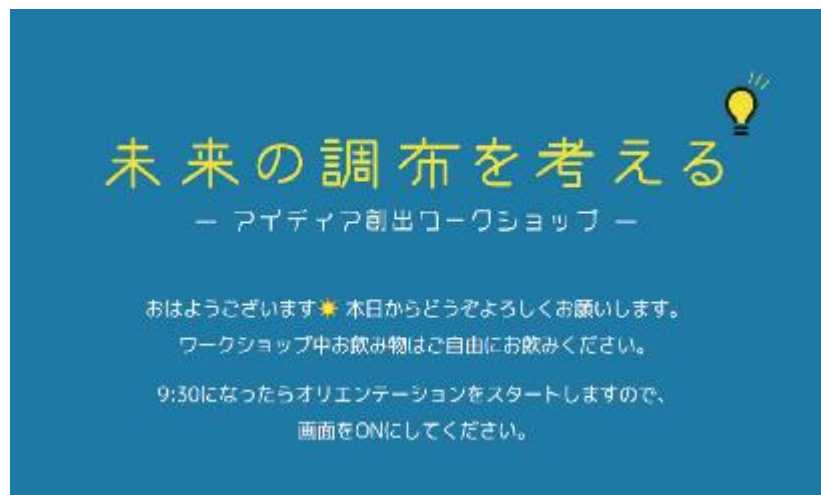


CO₂の計測事例

【地域人財育成WG】地域人財交流基盤強化の枠組みの組成

自治体・企業等における異業種交流でのワークショップや、学生ワークショップ等の実施を通じ、人財交流を活性化する枠組みを検討・組成。

事例：2020年に開催した学生ワークショップ



- 開催日：11/28と12/12の2日間
1日目で取り組みテーマを決めたのち、各チームで2週間調査・検討した内容を2日目に発表
- 電通大・白百合女子大の学生10名参加
(学内掲示板から応募のあった学生)



- WebEx（会議システム）、MURAL(オンラインホワイトボードツール)を使用したオンラインMTG

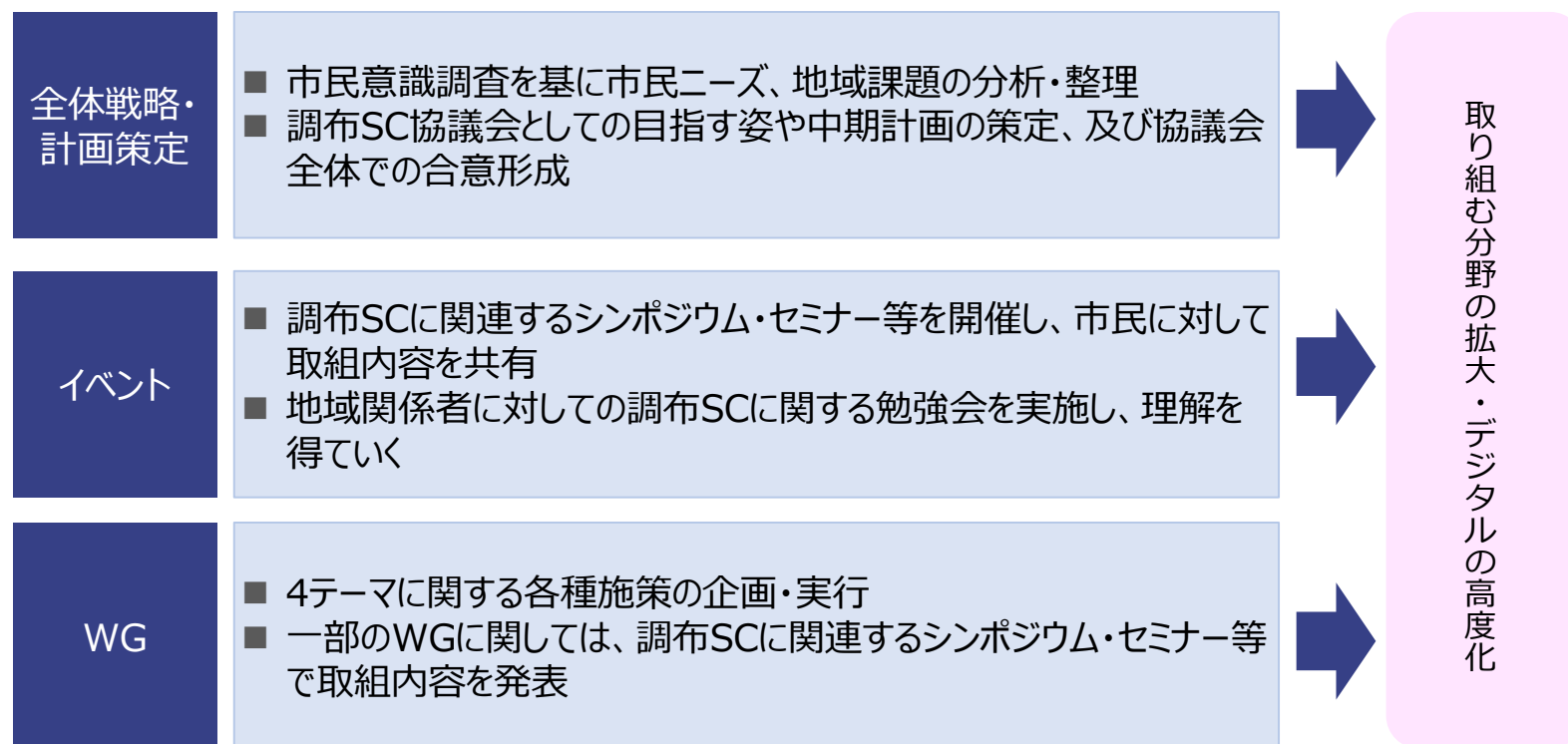


- 調布市からは調布市策定庁内プロジェクトチームが参加し、市の状況や課題を説明
- アフラックからは、社会人としてチームごとのファシリテートを行い活動をフォロー

協議会設立後のアクション

協議会設立後、市民ニーズや地域課題を分析し調布SCの目指す姿・中期計画について協議・策定予定。また、調布市民や地域関係者にも理解いただけるようイベントについても企画予定。

2021年度のアクションリスト



ご清聴、ありがとうございました

